

## 第11回 長南町過疎対策検討委員会議事録（要旨）

平成25年7月12日（金）

庁舎分館2階第一会議室

18時30分から

出席者 過疎対策検討委員会委員10名 アドバイザー1名

傍聴者2名

事務局 石橋、常泉、相澤

会議資料

- ・“市”の復活 ～定住促進のための第一歩として～
- ・空き家を活用した長南町への定住促進
- ・空き家を利用した長南町への定住促進（西田私案）
- ・『若年層を取り込み、元気なまちづくりの火を起こす情報発信』
- ・提案書

### 1. 委員長あいさつ（岩瀬委員長）

今日は第11回目の検討会になります。始めに、今日から新たに検討委員に就任していただく方の紹介と委嘱状の交付を町の方でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

### 2. 委嘱状交付・紹介

委嘱状交付 新検討委員 2名

（石橋課長）

三十尾市衛さんにおかれましては、農業部門の有識者ということで、現在豊栄地区・関原営農組合の組合長をされております。また、中橋一夫さんにおかれましては、長南町の商工会長であり、商・工業の有識者ということで、今回委嘱をお願いしたところであります。

（三十尾委員）

今回、推薦をいただきまして受けることになりましたが、資料を見させてい

ただいてわかるように、農林業の連絡協議会などにも協力を取り入れるというようになっておりますが、こちらは今、自分が副会長をやらせていただいておりますので、そのあたりを兼ねて、町のイベント等も連絡協議会の方で行っているのですが、見直しをした方が良いというような案もそちらに出ていました。私達も、こういうやり方が良いということで行っているわけではないので、とりあえず、町の宣伝のために行おうと、できることから行っております。

結構今はイベントとして一番大きいのは「農林業祭」、あとは「熊野の清水祭り」、それから、一昨年から「ぐるっと長南花めぐり」がありますが、これらにも私たちが出ています。あとは、各団体が単体でイベントを行っていますが、こうしてイベントを行っていても、若い人たちが来てくれず、それに対し、お年寄りの方々にはたくさん来ていただけているというのが現状です。来ていただいている方には素晴らしいというように評価をいただいておりますが、そこで名産品などを買っていただけるかどうかというのはまた別の問題であると考えています。また、私たちのほうでは離農者対策についても非常に問題を抱えております。これについては、対策を考えるよりも離農者が増えていくほうが早く、農業の後継者育成が間に合わないという現状です。これらの問題を踏まえ、皆さんにもまたご意見をいただき、協力していきたいと思っております。

(中橋委員)

長南町商工会の会長を務めております、中橋と言います。よろしく申し上げます。この政策の中に「市(いち)」の復活という問題が出てますけれども、実際に長南の町中の通りを通行止めにしてできるのかということは、この中で一番に考える問題であると思っております。それが決まらないと、先に進むことができないと思われまますので、その件については資料の提示等もできると思っております。

### 3. 検討・協議の内容

(岩瀬委員長)

それでは、本日の議題に入らせていただきます。前回各部会のほうにお願いしてありました、部会ごとの施策案の発表を行っていきたくと思っております。始めに、「市(いち)」の部会からお願いします。

(資料：“市”の復活 ～定住促進のための第一歩として～)

(長谷川委員)

では、岩瀬さん、池田さん、佐久間さん、そして私、長谷川の四人で担当しております「市(いち)」の部会ですが、代表して私の方から説明したいと思えます。

まず、目的としては「市」による交流人口の拡大。こちらが絶対条件となります。そして、「市」を行うことによって人を呼び、長南町の魅力をアピールすることで、定住促進にも繋がります。それから、「市」を行い、実際に物品が流通すれば、それに基づいて、長南町の農家さんや商売をされている方にも利益が生まれます。それらの利益の何割かが町と活動を主催していく方たちの活動資金に繋がっていくことが最も大切なのですが、これは、「来場者」は、イベントで楽しく過ごすことができ、長南町はそのイベントが面白ければまた次回以降も行えるという面白さもあり、また、出店なさっている人たちからすれば商品が売れることで利益を得、その利益を上げて人が集まり、やがて町全体としても定住者や資金の増加にも繋がるという、以前から石田さんが仰っている、「主催者」・「参加者」・「来場者」のそれぞれが利益を得るという形を追求していったものとなっています。そして、この関係を保っていくことが大事なことです。それを見ながら話を進めたいと思えます。

もともと「市」があった長南地区の商店街はほとんどシャッター街になっているようにも見えますが、まだまだ展開されている店舗さんにはその魅力を追求しながら、道沿いにテントを並べ、いろいろな人を呼んでいただけたらと思えます。(資料：(3)“市”の具体案を提示)長南町の象徴という意味で、古い商店さんが残り、長南町の魅力の一つに集められる場所として、長南銀座商店街(仮名)を候補地として選んでいます。そこでの開催は、初めの内は年に何回かを考えています。また、長南町の町民全員が参加するというのを一つの目的として掲げています。そこから、地元商店をアピールしていき、商店をもたない方に関してはテントによるブース設営を基本とし、そこでは長南町固有の特産品を取り扱い、その季節ごとに採れる豊富な食材をアピールしていくというのが、「市」を行うということの根幹となるのではないかと考えています。さらに、町外者の方に長南町の魅力の一つとしてそれらを知っていただくことや、その魅力が長南町にあるということを町民自身に理解していただくことも非常に大切であるというように思っています。

長南町には色々なアーティストの方が住んでいます。これは、都会ではできない事情がある活動も長南町でなら可能であるというところに理由があり、そういった点では町の住みやすさを非常に感じていただけています。それから、手作り食品や色々な料理をやっているお店をもっている方に、そういった料理作品の発表の場やお店のアピールの場としても「市」を使っただけです。

来場者の方々に食品が評価されれば、また次回以降のイベントにも来ていただけます。周辺の人気店にも参加していただければ、この「市」自体の魅力が上がり、来場者の方も増えるのではないかと思います。また、環境のPRとして、町の自然や歴史的な施設を説明するのに良い機会の場合もあります。写真コンテストなどを開催して作品を展示していくことで、町民からしたらその場所の再認識に、町外者からしたら行ってみるきっかけ作りにもなると思いますし、同時に空き家情報も展示できれば、これを機会に長南町へ転入しようという意識も喚起できるんじゃないかと思います。

まずは「市」がどれだけ今後の長南町の発展に大きな力を持つかを理解しなければいけないと思います。「市」が定期的なイベントとして定着していけば出店する方たちには定期的な収入になりますし、町内だけではなく町外からのお客さん、町外からの収入が入ってくることが一番大きいことですし、それから、長南町でこれだけの活動をしているとアピールになればそれを目的に入ってくる方も増えると思います。まずはアートをやっている方、それから、良い環境で子育てをしたいと思っている方にも長南町の情報が伝われば、より多くの転入者を見込めます。実は、都市部では農業をやりたいという若者が多いのですが、どこでやればいいのかという情報も出ていないのが実情です。なので、そのアピールも人が集まる「市」という場であるのが非常に大きい力ですので、とにかく、「市」というのは販売だけではないということ意識していただきたいと思います。「市」の効果ということになりますが、今商店街にある商店の活性化をまず第一に、その商店街をはじめ、長南町全体の空き家、これに対して外から入居者が集められ、環境のアピールと環境を求めてやってくる人達の勧誘の場となり、そして、芸術によってもたらされる感動によって町へ人を呼んでもらいたいと考えます。農家の方々も自分たちで作った農作物の発表の場にしていくと楽しいと思われそうですし、それらを活かし、町の新しい料理法などを発表していくと農作物のアピールにもなると思われそうです。

それらに対しての問題として、通行止めの問題、開催日の決定や周知の方法などがありますが、その解決策として、まず、駐車場を小学校や保育園にしたらどうかということと、また通行止めが不可能だとして、逆に路線バスなどを限られた時間内で一本外れた小学校前の道路に通すという方法もあるかと思えます。全面通行止めではなく、迂回路を用意していくことが大事であり、たまたま乗車したそのバスの中で「市」の開催を乗客の方に知らせる機会にもなるなど、こういった形で人を呼び込むための方法に転じられるということを理解していただいて、もし商店街がだめなら他の場所で同じ内容でやれば良いと思っていますので、そういったことも問題解決の一つの方法として考えていただければと考えております。何よりも、「市」を中心にしながらいろんなイ

イベントを毎回企画していくことが新しいことを生んでいくことに繋がりますので、なにかしらのいろんな活動ができるフリーステージの設置をしながら、長南町を発祥とするコンテストの提案などもいいと思っております。その一つとして、軽トラによるカスタムカーコンテストなど、他にはないような魅力を発信していくことが面白く見られるのではないかと考えています。やがて、この形に写真と図面を取りつけて、より理解しやすい形、例えば「市」と言ってもテントを出して出店するというその形もご存じない方も多いので、その辺は写真と絵で説明しながらあとは農作物がどのように料理に転化していくのか、そんな形を加えながら、提案としてまとめていきたいと考えております。 以上です。

(中橋委員)

バスを迂回させるというのは絶対的に無理だと思います。バス路線というのは決められたところを申請で出しております。なので、通行止めを短い区域で行うにしても、バス会社は許可を出してくれないと思いますが、交渉してみないとわからないことではあります。「市」の復活はいいことだと思うんですが、農作物がある月と無い月が出てくると思います。なので、開催日や出店してくれる農家の方の人数によっては、どこか別の業者さんから商品を購入する必要も出てくるのではないかと考えています。

(三十尾委員)

「市」を実行に移した場合、ある程度の出展者が増えたときに、通行止めにしなくても大丈夫なんでしょうか？ もしできないようなら、町営グラウンドや公民館なども使ってやるというのは駄目なんでしょうか？

(岩瀬委員長)

役場や公民館、グラウンドなどから「市」を初めてみてはどうかという意見もありましたが、部会としては今の長南銀座のシャッター通りを何とかするというのが一つの方法であり、この場所で「市」をやることによってそのシャッター通りを活性化させ、町の顔である長南銀座を復活させる。「市」をやることで相乗効果を生み、空き家を改善し活用すること、現在の商店も活性化させることの二つの目的をもって、県道 147 号線の長柄・大多喜線が良い場所じゃないかと話が進んでいるところです。全面通行止めという話は以前から難しいというように聴いておりました。やはり、車の通行がある中では「市」はできないと思います。その区間を区切ってやれば、ある程度の距離がありますので、その中で歩行者天国のようにやっていたら、というのが検討委員会の案です。

(三十尾委員)

これを実行に移す場合は、主催は検討委員会の方で行うんですか？

(岩瀬委員長)

これは町へ提言するものとなりますので、町の方で「市」の実行委員会を組織していただき、運営はそこをお願いするというように考えています。

(三十尾委員)

町への提言はいつまでにする予定ですか？

(岩瀬委員長)

今進めている「市」の部会、空き家の部会、情報発信の部会については、九月末までに施策をまとめ、中間報告という形で提言したいと考えています。それに伴って、福祉関係と商業の関係についても基本的な概要をまとめて提出します。最終的には、十二月の中旬あたりを目標に、提言書の提出をできるようにします。

(池田委員)

今まで農業関係の方が開いていた「市」は大体が農産物中心の「市」でした。そういった「市」の情報は千葉の方面等には発信されておらず、そのため、その売買の対象はほとんどが長南町とその周辺市町村だったと思います。今では圏央道も開通してインターもでき、交通量も増えて今までの何倍もの人が集まってきているので、「市」の情報を、農産物だけではなく他の色々なものが「市」としてあるということで県内・県外のほうまで情報発信していけば、今までとはずっと違ったものになると思います。

(石田アドバイザー)

今、議論が少し詰まっている部分が、あそこに人が来たとしても、交通問題があるということで、そこは広い所を使ってもいいんじゃないかという案もあります。その広い所からうまく町に繋いでいける範囲を取っていけばいいわけです。失敗なども当然あります。それもモデル事業として実証実験をしながら一歩ずつ進む話なので、いきなり全面通行止めにするということにするのではなく、まずはできそうなところから徐々にやっていけばいいと思います。しかし、もしあの商店街が活性化し、人が集まるようになった場合、道が通行止めにはできないぐらいですから、人が多く通行することができない、つまり、商

店街を活性化することを前提としていないことになってしまいます。なので、ああいった細い道でも商店街を活性化させるなら、人をどういう風に通していくかなど、町の設計をもう一度やらなければなりません。それに繋げていくためには、実験をやりながらどういう形がいいのか模索していかなければいけないと思います。なので、駐車場や道路をどのようにしていくかという設計を含めて、変えていかななくてはいけないという問題は既に持っています。しかし、それはすぐにできることではありませんので、今はできるところから始めまして、それを町のほうへ拡げていくというように段階を踏んでいくことが必要かと思われまます。

(長谷川委員)

まずは人を呼ばなければ何も始まらないかと思われまますが、確かにそれが一番の問題だと思います。若い人が面白い、楽しいと思ってくれるようなことをするのが大事で、農作物についても美味しいと口に合えば買っていただけますし、家族連れで来た方には安心・安全なものが欲しいという方も非常に多いです。そういったニーズに合わせたものを今後作っていくという目標にもなりますし、こういう色々な可能性を探りながら、まずは人を集めるということを重視して、この計画を皆さんで話し合っていますので、できないことをどう変えていけばできるようになるのかということをお話し合って、企画書にまとめていくことが大切なことだと思いますので、これまでの皆さんのご経験から話をいただければなと思われまます。

「市」では農作物だけ売わけではないです。今、長南町に住んでいらっしゃるアーティストの方たちはほとんどが転入者の方たちですが、その方たちは個人的に外からのお客さんをもっています。そのもっているお客さんを「市」に呼んでいただければ、それだけで色々なお客さんに集まっただけです。そういった形なども取りまして、まずは長南町にあるものを知ってもらい、その魅力も知ってもらうこと、ここが一番のポイントとなります。これをできる形にしていくことが最大の目標であるということをご理解いただきたいと思われまます。

(岩瀬委員長)

話もだいぶ突き詰まってはきていますが、実現性の高い案を提言するというのが私たちの使命だと思います。道路の通行止めだったら基本的に難しいのではないかということですが、やはりその辺は、誰も確認しておりません。やれば、何とかできるんじゃないかというような発想があります。ただ、全面通行止めでやっているところもあります。結局のところ、私たちもまだ確認をして

ないので、はっきりとは言えないのですが、ある程度は協議等の段階で可能性が出てくることも踏まえたうえで、もう一度町の方で、道路管理者に確認をお願いしたいと思っています。それによっては、公民館等も使いながら、石田さんも仰っているように町の方に拡げていくということもとられますので、案としてはその二つに絞られていくのではないかと思います。

(長谷川委員)

段階的に話を進めていくということで、それもここに書いてある通りなので、いきなりこの形にはめなくてはならないというものではないと思っています。なので、それも含めて実行可能なものとして、何よりも集客力がありそうだとわかったら、もっと物が変わりやすいはずです。一番追求していくのはその部分だと思いますし、周りの色々なものが集客力を上げていますので、それらに習っていけば利益も挙げていけますから、その方向性も探っていければと思います。問題点があるならば、それさえ解決すれば可能になるということの裏返しでもありますので、そこを見ていくのが一番大切なことであると思います。

(岩瀬委員長)

基本的には、問題点を問題として終わりにしてはいけません。ある程度、問題は何故問題として起こるか、それを解決していくような知恵を出して、町としても動いて行ってくれる姿勢を作っていただきたいと、そのような形でまとめていってはどうでしょうか。とりあえず、「市」のほうについては、皆さんから意見があった通り、この案をもう一度見直していただくよう、お願いします。

では、次の空き家部会の方に入らせていただきたいと思います。武田さん、お願いします。

(資料：空き家を活用した長南町への定住促進)

(資料：空き家を活用した長南町への定住促進 西田私案)

(武田委員)

空き家部会は、岩瀬さん、石田さん、西田さん、武田の四人で構成されています。空き家部会はまだ案の方が出来上がったわけではなく、出てきた意見をこれから詰めていかなければならないといった状況です。資料としましては、二つ提起させていただいております。まず、「政策名：空き家を活用した長南町への定住促進」という方からご案内させていただきたいと思います。

目的としては、空き家を有効活用して、若者を始めとした色々な世代が入ってこられる形を考えていき、それを通して町の活性化を考えていくというものです。現状と課題では、平成18年に空き家情報バンク制度を長南町として作りましたが、現在では貸す側より借りたい側の方が多く、空き家の情報として出しているものが少ないという現状です。そのことへの対策としてとっている施策ですが、今までの展開よりも一歩踏み込んでやっていければということで、いくつか挙げてあります。(資料：3，①を提示) まず一つ目の政策は、空き家情報バンク制度を今までよりも充実させることです。ソフト面で、一番目として定住・移住推進係というものを設置しまして、空き家の相談から入居手続きまでのお手伝いをしております。次に、リフォームの費用や後片付けの費用を補助する制度を作りました。それから、町が宅建業者さんに物件仲介を委託するサブリース方式を導入してはどうか、としております。初期の頃は町の方で資金と事務を執り行いますが、軌道に乗ったら民間主体でやっていこうというようにしています。(資料：3，②を提示) 二番目に、現在では空き家の概要をHP上も含めてご案内していますが、これにもう少し建物の細かい情報や周辺主要施設についても入れて発信していこうと考えています。あとは、実際に住んだことを考えて、そこでの生活情報や環境のこと、これからの生活がどうなるのかイメージできるような情報として体験談の発信、それから、現在長南町として空き家に対する移住・定住の支援策と、それに関連する町の魅力や観光の情報も発信します。そこからもう一歩踏み込んだ形の情報発信をして、田舎暮らしを希望する方や二地域居住希望者というスタイルもありますので、そういった方たちの移住・定住の動機付けに役立てればと思います。ソフト面での三番目に、空き家活用・定着促進相談員というボランティアの形で、新しく移ってこられる方々に近隣との関わり合い方やゴミの出し方といったことを伝え、上手に長南町に馴染んでいただけるように支援しようという相談員制度があります。それから、住宅を含めた様々な空き家をアートなどにも活用できるような形を含めた空き家支援を考えていこうとしています。参考としては、睦沢町では空き家バンクの登録促進として奨励金が出ています。また、空き家利用の促進事業補助金というものも出ています。これは国の補助があり、それを活用して行っています。長南町としては、これまでの対象としては入れておりませんが、それも含めてこれらを参考にし、場合によっては取り入れていくことも考えていこうと思っています。

次に資料の二つ目、西田私案の方ですが、(資料：2ページ目を提示) 近隣に対する面子に対しては町の方で、転入者の方に長南町の過疎対策に協力したということで、「名誉ある褒賞」を創ったり、仏壇をどうするかという提案もあります。それから、家の片づけで古物商などとバーター契約を結びとありますが、

この辺はまた詰めていかなければと思います。こういった部分の提案はいただいておりますので、今後もう少し詰めて、九月に間に合うようにしていきたいという段階です。以上が、空き家の方からの報告になります。

(岩瀬委員長)

ありがとうございました。それでは、空き家部会の施策案についての意見等をお願いします。

(池田委員)

どうやって空き家を探していくか、ですね。物件はあるけれど、空き家として使える状態ではないものがあると言いますが・・・

(石田アドバイザー)

例えばいすみ市ですと、空き家バンクの登録が今は30件ほどあるそうなんですけど、それは昭和40年代ぐらいに安普請で建てられたものが残っているらしく、外から来る方には好まれません。もともとの古い家というのは中々出てこなくて、出てくるとすぐに不動産を含めて借り手がつくという状態です。そういう意味で、空き家が出てこないということについては、もう一押しの方策を考えなければならぬかと思いますが、それではよろしかったですか？

(西田委員)

そうですね。私が実際に長南町に住みたくてあたってきたことの多くが、近隣に対する面子とか、ご先祖様の仏壇とかがあったほうがいいというようにされていたんですが、逆に今度は住む方の側、またご子息の側は、それらをどうしたらよいかわからないですとか、家の中の片づけができないですとか、色々な理由がありました。なので、そういったマイナスと言いますか、ミスマッチな部分を解消していく手立てを創っていかないとどうしようもないんじゃないかと思います。入居者の方にミスマッチでやはり駄目だったと言われたら、そこはただ説得するだけではなくて、良い方向に方向付けして納得するような形を町が関わってくれることで出来るのではないかと思いました。ここに書いてあるのはあくまでサンプルであって、これがいいと言っているわけではありません。だから、こういう中で知恵を出し合うことで、物件はあるがそれが物件として成り立つような形を創れたら良いと思います。

(岩瀬委員長)

空き家があるお宅には、こういった理由で貸さないということになっている

のでしょうか？

(三十尾委員)

処分はしたいようなんですが、買う側の方も解体費用がかかったり、地主さんはそのまま処分したいという事情があるようです。空き家としては、もっと古い骨組みでつくっているようなものが望まれると思いますが、それこそ安普請の物件で、条件も悪いです。

(長谷川委員)

それでも条件さえ出せば、それに適った人がやってくるはずですが、そこで一つ提案なんです、空き家部会の方々に見ていただきたいもので、「田舎暮らし 千葉房総ネット」という Web ページがあるんですが、ここは空き家を紹介する際のマイナス面を個性として表せているところがありますので、そちらも例として具体案の中に加えられてはどうかと思います。

(三十尾委員)

平成 18 年から町は空き家バンク制度をやっているようですが、こちらの成果というのはどうなのでしょう？ 空き家自体はあるそうですが、家を空き家にしても、もし人に貸した場合に付き合いが悪かったり、苦情を言われたりすると困るとして、貸すのを躊躇してしまうという例が結構あります。もし人の付き合い方が悪いような場合、地区ごとの取り決めなどを一緒に守れるかどうかなどを地主さんは心配して、それなら、家はそのままにしておこうという考えになっているようです。そういった意味では、物件としての空き家は多分たくさんあるかと思います。

(岩瀬委員長)

町のほうでも色々とやってきていましたが、空き家に関してはそれを貸してくれる人がいませんでした。

(三十尾委員)

それは貸す側のことも考えて、何故貸さないのかということについて全部調べる必要があると思います。対策としては、地区の区長さんたちに集まっていただき、空き家についての情報を教えていただいて、一緒に対策を考えていくのが方法としてはいいと思います。

(岩瀬委員長)

ありがとうございました。空き家部会のほうでも意見が色々出ましたが、空き家の提供者についても動機や事情についてまとめていただきたいと思います。続いて、情報発信部会の田島さん、お願いします。

(資料：若年層を取り込み、元気なまちづくりの火を起こす情報発信)

(田島委員)

まず、「政策名：若年層を取り込み、元気なまちづくりの火を起こす情報発信」のほうで、過疎対策検討委員会の本来の目的というのが、若者の定住促進と交流人口の増加ということで、情報発信のほうもそれに向けて情報を発信していくということを目的としています。(資料：1. 目的を提示) こちらを具体的にどうしていくかという提案をしていきます。現状と課題ですが、魅力的な地域資源が近隣地域や東京といった地方にまだまだ情報として発信されていないというのが実感としてありますので、そういったものをうまく紙媒体やインターネットを使い、情報として発信していく取り組みをして、訪れたい町、やがては移り住みたい町ということで訴求していき、それを町外にアピールすることによって、逆に町から離れて行ってしまった人たちにも新たに見直してもらう機会としまして、町内・外の両方に魅力的な町の情報を発信していければと考えています。(資料：3, 政策の内容を提示) 具体的な政策として、一点目に、「長南町タウンガイド」というものがありますが、公民館以外にどこに置いてあるか全然見つけたことが無いというので、こちらの設置場所をもっと増やしてはどうかということ、提案の一つとして挙げさせていただきました。二点目が、観光案内板の設置です。長南町には国道・県道が走っていますが、通過するだけの町になっているという部分があるのではないかという意見がありました。なので、こういった主だった道路には長南町の観光案内板を設置して、町がどういうところなのかを車で通るドライバーの人たちに見ていただいて、いつか看板が示す場所を訪れてもらえるような、魅力的な案内板づくりを提案させていただきました。その他には、「ちょな丸」というマスコットキャラクターを町のスポットに置いて、それを探してもらうようなゲーム感覚のようなものを情報として発信し、楽しみをつくることで、長南町の名所等をアピールしていくということを、先ほどの観光案内板のところにも追記してあります。三点目が、HPのリニューアルです。今のHPですが、町内の方々向けには巡りやすく、見やすいものになっていますが、町外の方へ向けにはなっていないのかなという意見が情報発信部会の中でありました。長南町の魅力や観光スポットが、トップページからわかりやすくたどれるようにしたら良いのではないかと思います。

た。例えば、長南町のトップページのところに、大きくお勧め観光スポットということでリンクを設けまして、そこからたどっていくことで長南町の魅力的なスポットの写真や動画やアニメーションなどを見てもらい、それらを駆使して興味を持ってもらえるようにしていけるといいように思います。また、イベント等の情報を気にしている方もいらっしゃると思うので、そちらもわかりやすくたどれるように徐々に変えていくと良いのではないかとというのがインターネットの部分です。次に、ネット世代を意識した PR 手段の戦略的活用ということで、インターネットを使う若い人たちというのは多いと思いますが、そういった方たちに向けて HP やブログを充実させていったり、地元の各活動団体の既存の HP やブログの充実のための講習会などを開いて、地元の人たちの情報発信面もサポートしていけるような体制も取ればいいのではないかとすることも、提案として入れさせていただきました。さらに、長南町には本当に色々な方たちがいて、その個人個人はブログなどを使ってアピールをしている部分があるので、そういう人たちに向けても呼び掛けて、一緒に長南町を魅力的に発信していこうというような伝え方セミナーなども開き、一人ひとりが長南町の魅力を発信する記者のような意識付けを展開していけたらというように考え、提案をさせていただきました。

次に、長南町のタウンガイドよりも詳しい内容を知ってもらうためのフリーペーパーの作成を提案させていただいています。具体的施策としては、町民には郷土愛を醸成するもの、来町者には記念品となるフリーペーパーを作成したいと思っております。写真やイラストに対応してデザイン性の高い小冊子で、現地でしかわからないような情報を季節ごとに変えながら伝えていけるものがあればいいなと思います。特に、町の住人に焦点を当てて、その人が町をどう好きでいるのか、或いは今どういったことに働きかけ、活躍しているのかなど、具体的に人の魅力を伝えることで、その人に会ってみたいというような人が出てくれば、長南町の交流人口が増えていくことにも繋がるのではないかと考えます。

最後に、今までは町外への情報の発信が基本でしたが、町内への情報発信ということで考えたときに、長南町にある防災無線を有効活用することについて意見がありました。例として、母の日などの記念日に、その日に見合ったメッセージを放送で流すことで、町として注目してもらったり、長南町の色々なイベントのときに上がる花火の内容を告知したりと、情報共有などにも活用できるのではないかと思います。それから、防災無線を使ってラジオ番組の制作・放送というものを提案させていただいております。毎日でなくとも、特別なイベントの日に特設ラジオ局を設けて、その日にまつわる歴史や伝統・文化、ユニークな話等を防災無線で流し、特別な情報層を設け、町民の方でも知らない

ような情報を語ることで、町民にとっては郷土愛を育んでもらい、町外の方には興味をもっていただけるものになるのではということ、こちらも提案させていただきました。さらに、「広報 長南」の中に、若い世代の方も楽しく読めるようなページを設置したら良いのではということも述べさせていただきました。具体的には農業やまちづくりなど、ボランティアや芸能・文化などに関わっている若者を紹介したりですとか、そもそもの若者の長南町に対する考えや意見等を紹介するコーナーを創るという提案もさせていただきました。以上になります。

(佐久間委員)

防災無線の利用について、音がうるさくて迷惑だという訴えがあったらしいです。防災無線は外で仕事をされている方や、パソコンなどを使わないお年寄りにもお知らせできる、良案であるとは思っていました。記念日の特別な放送やイベント案内については、防災無線はすごく有効であると思います。

新しいお家などは、防災無線のスピーカーは町のほうに申請すればいただけるのでしょうか？

(石橋課長)

今まではお配りしていたんですが、今あるものはアナログで、もうデジタルのほうに変わるということで、あと 5 年ほどの間にアナログのほうは使えなくなるということです。なので、全部デジタルのスピーカーに換えようと町のほうでは検討中なんですけど、財政的に足りませんので少なくとも 3・4 年の内には長南町中すべてのスピーカーを換える予定ですが、今はもう在庫もほとんどありませんし、製造もしていないとのことなので、新しく町に入ってこられた方にはお配りできない状態です。

(佐久間委員)

古いものを空き家などから持ってくることはできないのでしょうか？

(石橋課長)

そういった形で集めていたようなんですが、それでも足りないというのが現状です。新しく入ってこられた方には、デジタルのスピーカーをお渡しするというにはしております。

(佐久間委員)

そうですか。 家の中にいるとそのスピーカーから、外にいると町の大きな

スピーカーからと、両方で聞けるのでいいと思うんですが。

(石橋課長)

基本的に、日中は屋内と屋外を一緒に流しています。日が暮れますと外はうるさいからということで、屋内の放送だけにしています。ただ、迷い人が出たときなど、生命に関わるような事態のときには夜間でも屋外に放送します。基本として、防災無線という形で設置してありますので、あまりにも本来の使用目的とかけ離れた場合には使用していないというのが現状です。

(池田委員)

選挙など公のイベントなどでは使用していたと思います。ただ、町のイベントなどでは放送が無かったと思うので、イベントの日に町で花火が上がった時にその内容の問い合わせがあると、さっきもありましたね。

(長谷川委員)

逆に、防災無線だとうるさいという理由で、電源を切っている方も多いようです。これだと防災無線としての機能を発揮していないので、聞きやすくすると両方をやっていくのが重要だと思いますので、拡充するというのは良いことだと思います。

(池田委員)

この情報の部門は随分と詳しく、具体的に色々なことを考えていて非常に良かったと思うんですが、それだけ情報が出たとして、それを見た人がやって来た時に、特産物について聞いて来たが、買おうと思っても買うところが無い・わからないということがあります。タクシーの運転手さんも、「特産物のことを聞かれるが、どこへお連れしたらいいかわからない。」というように仰ってました。なので、この町の特産物がいつでも行けばあるという所が、大きなお店でなくともいいので、どこかに委託したりですとか、何かしらの形で用意しなくては、高速道路などに名産物の情報があっても、どこで購入したらいいかなども全然わからないです。そういった声が多いので、これは町当局にどうしたらいいか考えていただきたく思います。

(長谷川委員)

(資料：3，④を提示) 地元の各活動団体の既存の HP やブログの充実とありますが、その充実というところを具体的に一つ書いて、例えば農林業さんのほうではこういったことをやっています、どこに行けばやっています、という

ように具体的にイメージしてしまっ行って行動しやすい形で説明するほうがいいのではないかと思います。特産物にしても販売している場所はこちらですとご案内して、旬の物の情報や田んぼの状態なども書けます。こちらはフリーペーパーのほうと連動して、Web と印刷物のデータを共通にしまっ行って、二つのうちどちらを見ても主な情報は知ることができるという方向性も、具体的に書く方がわかりやすいんじゃないかと思います。

(田島委員)

情報発信はすべての分野に絡んでくることだと思っるので、今は特産品がどこで買えるかわからないということに関しても、今度から検討する農業の分野とも絡めてやっっていくことだと思っっているのは思っっていたことなので、長谷川さんが仰っっていたように現時点で買える場所をアピールしつっつ、具体的には農業の分野で購入できる場所をどう開拓して行くかというのも、今後の検討になってくることだと思っました。

(西田委員)

例えば HP などともそうなんですけど、そういう情報発信のところで蓮などを若者でも食べやすいような、サラダやステーキにして食べるレシピを作っって一緒に載せるとか、それも農業と連動するとか、逆に言うとも色々な入口ができてマルチなものになるので、それらが拡がっって見てくれる人が拾えるものが増えると思っますし、ありがたいです。

(岩瀬委員長)

情報発信部会についてはこれから産業振興なども絡んできますので、それらを踏まえた中で九月末までに施策の完成を目指していきたく思っますので、よろしくお願っします。

三案については以上といたしまっして、前回お願っしてありました、今後検討して行くテーマを各自三つずつ挙げていただきたいと思っます。武田さんの方から順番に発表をお願っします。

(資料：「プロ食材提供ビジネス」の提案 ほか)

(武田委員)

(資料：「プロ食材提供ビジネス」の提案を提示) 最初のところになりますが、「プロ食材提供ビジネス」の提案としまっして、この目的としては、産業振興・

就業の場をつくる、この二点になります。提言の内容としては、対象のビジネスが「葉っぱビジネス」、徳島県上勝町という人口 2,000 人の町でこのビジネスを立ち上げて長くやっております、一部は会社組織になって全国に葉っぱを売り込んでいます。具体的には、青もみじの大きいもの、笹の葉の大きいもの、南天の大きな葉を売るということをビジネスにしています。もしこれを町の方でやる場合、長南町の利点としては、首都圏・東京に近いということがありますので、上勝町よりも時間的に半日近く早く葉っぱを新鮮な状態で提供できるというハンデもあります。競争になった場合にも、勝ち目のある内容であると考えています。さらに、この「葉っぱビジネス」よりも期待が高いのが、「海外系食材ビジネス」だと思っています。このビジネスの内容としては、例えば、日本国内で海外の本格料理を楽しもうと思った場合、その料理に合った食材を町の方で生産して提供することができれば、日本で唯一の産地になる可能性があるかと思えます。特に長南町のメリットとしては、やはり首都圏までの距離が近いということがあります。それを活かして、東京のレストランや料亭などへ、まずセリングルートをつくり、そこからニーズを得て R&D（研究・開発）を行い、それをまたセリングの中に取り入れていく、というようなサイクルをつくり上げます。その対応のサイクルを行っていくことで、長南町でもユニークな食材提供が出来るのではないかと思います。その体制というものがある程度つくっておくことが大切です。ビジネスの体制というのは、やはりいくつかのグループがやっていくということで、その核となるものは、セリングルートの開拓のグループと研究・開発が一体となることで、一つのポイントになります。さらに、生産、出荷・発送、品質管理といったグループがあって動いていくという形になります。このビジネスは五年で年商が十億円に届くのではないかと思いますので、将来は法人化して一つの株式会社にすることを目標にしていくのが良いのではないかと思います。やはり、圏央道という非常に計画に合うものが揃ってきたということで、それらをうまく利用して、このプロを対象にした食材の提供ビジネスを提案したいというように思います。

二番目に移ります。（資料：「ながいき特養」の提案を提示）特別養護老人ホームというのは、現在日本全国で入居待ちの人が 42 万人いると言われていています。用地の問題等で新しく建設できないといった理由がありますが、そちらをヒントにしまして、就業の場をつくるという目的で長南町のほうでは特別養護老人ホームを集中的に建設します。その条件として、入居者の 10%は町民を入れてくださいというようにすれば、町の福祉の向上にも繋がると思えます。ただ、一つ問題がありまして、民法にも関係があるんですが、老人ホームに入った時点で住民登録するというのが原則なのですが、調べてみますと色々グレーなところが結構出てきます。老人ホームによっては一時的に移す所もあり、移さ

ない所もあります。では移すことによってどういう影響があるかという、例えば長南町に住民登録を移された場合、どちらかというマイナス面の方が大きいです。何故かという、かなりの額の保険料が上がってしまい、収入に関しては少ないという事実があります。ですが、長生郡市の中で「ながいき特養」で特区の指定を受けて、特に住民登録は移さなくて良いという形になれば、特別養護老人ホームは長南町の中にたくさん造れるのではないかと思います。その実現のためにはロビー活動が必要になりますが、こういった案もあるというところであります。

三番目です。(資料:「長南ヴァレー (Chyounan Valley)」の提案を提示) シリコンヴァレーというものがアメリカにあります、それと同じように長南ヴァレーを造ろうという提案です。カリフォルニアのシリコンヴァレーは、何を通してああいったものになったかを考えますと、実は大学を田舎町に創ろうとした時に、そんなところに大学を創っても無意味ではないかという話がありました。しかし、無償で土地を提供するから工学系の大学を創ってほしいという話から、工学部を含めた新しい大学を創立しました。それがきっかけとなって若い人たちが集まり、その中の IT 関連を専門とする人たちがシリコンヴァレーに IT 企業の本社を設けました。それと同じように、長南町にも飛行場の代替地などがありますが、それらを大学へ無償で寄贈しますが、そこには必ず大学の工学部を創っていただくようお願いいたします。ただし、返還は認めないとして、ずっと大学を続けていっていただくという条件で無償提供します。そういうことで大学を創り、それとともに長南町はこういったことに積極的であることをアピールしていきます。それから、この進出企業の固定資産税についてですが、20年間なしということになると、交付税の関係もあって、あまり甘いことをやっている県としてみても、それならば交付税を減らすという話にいきます。ところが、長南町は長生郡市の中で唯一過疎です。過疎の町というのは要件もありますが、二分の一くらいの減免は出来ます。その固定資産税の減免を受けられますというようにすれば、非常に大きなポイントになるのではと思いますので、そういうように在宅勤務・ホームオフィス歓迎の町であると宣言します。実は、いろいろな所が海外にデータセンターやサーバーというような、いわゆる IT の核となるコンピューターを別の国につくっています。例えば、本社がシリコンヴァレーにあっても、一台たりともそのサーバーはシリコンヴァレーにないという所もあります。故に、セキュリティにも確実に安全であるとは言えない状況になっています。これが日本であれば、国の状態から見ても非常に安全であるとアピールすることができます。そういったセキュリティ面が一つと、二つ目に長南町自身には海拔があって、非常に強固な地層の上にあること、三つ目に首都圏・東京に近いところにあることの三つの利点を活かして、

システムセンターやデータセンターを誘致し、就業の場や産業の振興に利用していくというのが、三番目の提案です。

(西田委員)

私は、町の方でまだ眠っているものの利用を提案します。空き家ももちろんですが、名産物としてハスなどもあります。しかし、それらを扱う農家の方の平均年齢は非常に高いものになっていまして、その年齢の先輩方が辞められる頃にはちょうど四町歩くらいが耕期になってしまう可能性もあります。これに対し、東京でニューファーマー展というものをやっています。年間と言うと日本全国で六回くらいやっています。そこへ先験的・開明的な町・JA・組合等が行って、ニューファーマーを獲得してきます。なので、長南町のほうでもこういったところで受け入れ口をきちんとつくっていけば、後継者を外から呼び込むことができるし、過疎のほうも少しずつ補填していくことができるのではないか、ということが一つです。

次に挙げるのが、年間数度の料理コンテストの実施です。例として、町の特産物であるハスの料理などは農家の各ご家庭でそれぞれに料理のレシピがあるかと思います。そういったものを紹介することで、購入者の増加も見込まれますし、需要と供給の流れもつくっていけると思います。

それから、アグリツーリズムを取り入れていき、それに合わせ、町としての景観を整えていくこと。

(長谷川委員)

まずは、食による町興しということで、長南町の顔となるレストランの設置です。町で作っているものを美味しく食べる方法を日替わりのコックによる料理として提供する場所として考えており、そのレシピの公開にも繋げられると思ったので、提案させていただきました。この場合、世間が求めているのは安全な食材なので、やはり農薬と化成肥料の問題をどのようにクリアしていくかが最大の問題だと思っています。ただし、料理者を毎日変えることで違った一面を見つけられるのと、やがてそれが町内の料理コンテスト・新商品の開発になって、長南町からの商品として売り出していけるというプラスな点もありますので、そこは考えていきたいと思っています。ポイントとしては、長南町レストランの設置と食材の提供ルートの確立、これが一つ目です。

続いて、歴史文化の保存と継承ということで、長南町のアイデンティティーの確立として、今あるもので魅力的なものを残していく活動を挙げたいと思い

ます。町並みと自然の継承のために、開発予定地と保存地区をしっかりと制定して分けることで、長南町を良い形で将来に繋げていけると思っていますので、こちらにも提案させてもらいました。

三つ目に、研究施設の誘致です。例えば、世界最大の加速器を青森の方に造ろうとしています。それは、地震で影響を受けない土地の中に 25～30km の加速器が無いと次の実験ができないという理由がありまして、昔フランスにあった加速器は直径 2km のものなんです、これに代わるものを造るためには地震にまったく影響を受けない強い土地が必要とされています。日本でその条件に該当する候補が青森であり、長南町もそれに負けない強い土地でありますので、今までの他国で日本の実験を行うのに対し、今度は逆に国内に実験施設を造ることで、そこから産業振興にも繋がりますし、色々なマザーコンピューターの設置場所としておくなど、日本の情報管理の場所としての町興しという大きなビジネスに繋がっていくと思います。

(田島委員)

一つ目としまして、長南町の魅力発見ツアーを提案します。町の色々な魅力を地域の人達に提案していただいて、都心の人達に来てもらうツアーを、半官半民の形でできるツアーがあると良いように考えました。

二つ目ですが、公民館をもう少し有効活用するという意味合いもありまして、地元の方たちにはかなりの知識・知恵・技術を持った方たちがいらっしゃるの、その方たちを講師にお招きして、地元の人達で行う学校という形で学びの場を開催できると良いのではないかと思います。

最後に三つ目が、長南町には竹が多く、森林が荒れているところが結構あります。それを何とかするために、クールベジタブルという考えがあります。これは、竹やその他木材などを炭にして、土壌改良用の肥料として使っていただくというものです。農薬も使わず、有機農業として、さらに林業・農業にも有望なものができるのではないかと考えています。

(三十尾委員)

私たちは今の状態をどうするかということで動いています。皆さんの意見も素晴らしいものだと思いますが、私たちにはそこまでやる余裕がありません。ハスの農家さんはまだ入りやすいです。私たちは稲作専門です。では、稲作では後継者をどうするのか？ 長南町は稲作の町です。ハス農家はある程度の面積はありますけど僅かですよ？ 変えようのない広さです。長南の農業の

まずさというのは、今ですと畑が無いんですね。要は、畑は家庭菜園程度です。田んぼに野菜を作ると、土壌が合いません。排水が悪いです。結構、皆さんがやってるんですが、いいものができず、相当の手間を掛け、努力して、田んぼを畑の状態にしてあげないといけないので、専業農家は育ちづらいです。なので、町の方でいくら基金を積んだり補助金を出すという様にしても、その受け手がありません。畑だけで生活しているという人も今は 0 に近いと思います。野菜などを売る各売店・直売所がありますが、そこへ出す人のほとんどは高齢者の方が自宅で家庭菜園で作ったものの余りを出している状態です。その実態はもうすぐのところに来てますので、後継者が居なければ対策も立たず、どうすることもできません。そういうわけで、この件につきましては、皆さんにもご意見をいただきたいと思います。

(中橋委員)

こちらのほうも商工会の中ですが、ほとんどが工業になっています。商業の人はみんな廃業してしまっていて、いない状況です。後継者がいないということもありますし、お店を開けていても売れないという面も出てきます。町中で買い物をしない理由について、「商品が古い」、「目新しいものがない」という指摘を受けていますが、商店のほうから言わせていただければ、お客さんが来ないから商品の回転ができず、古いものになっていってしまうという意見があったので、商店を新たに開業するという方もいません。なので、商工会も今は 160 ほどの会に入ってもらっていますが、この状態がいつまで続くかと言えば、厳しい面でもあります。要は、商業就農者の維持ということを問題として挙げさせていたいただきたいと考えました。

(白井委員)

自分からは産業振興の面で、異業種交流イベントを開けないかというように考えています。町では農業・工業・商業など職種に応じて組合ごとに繋がりはあるかと思うんですが、その組合の枠を超えた横の繋がりというものは少ないのではないかという様に感じています。また、稲作の方面などで言う後継者や農業従事者の高齢化で、中々その中から何かをしていくというのは容易ではないと思います。なので、各々のそういった分野で少し他力が必要なのではないかというように感じていて、そこで分野に縛られることなく、町内で働いている方々や将来的に長南町を仕事の間として考えている人達を対象にして、交流する機会を設けたらどうだろうかと思っています。異業種だからこそ生まれる

そこでの新しい連携の可能性も考えられますし、生産者と飲食店に従事する人たちを組み合わせ、新しい長南町のグルメが生まれる可能性もあります。なので、各長南町、また町で働く意欲のある方たちをマッチングするようなイベントが企画されると良いではないかと考えています。

(佐久間委員)

まず一つ目が、農業についてです。先程からも出ていますように、安全であるということは一番大切であると思います。その中で、ただ単に無農薬であるということではなくて、それにプラスして栽培にはできるだけ自然の力を借りて行う、自然栽培という形でやっていけたら良いという様に考えています。それはお米に限らず、野菜もそうなんです、実際に家庭で作っている野菜というのは本当の無農薬で自然栽培だと思いますが、そういった形を大々的にできればいいんじゃないかと。現に無農薬で田んぼをやってらっしゃる方が何人かいらっしゃると思いますが、それというのは点在しています。だから、隣の田んぼは無農薬じゃないから自分の所も無農薬という企画が取れないということもあるので、それを一つに集約して、段々それを拡げていって長南町のお米は美味しいだけでなく、安全なんだという意味でのブランドもできれば良いと思います。そういった環境というのは、長南町にはいっぱいあると思っていますので、不可能ではないと思います。

それと、子育て支援ということで、以前長南高校があった時は町の若者がいた人数も今と違っていたかと思えます。なので、大学などができてそこに学生さんが呼べたら良いのではないかと考えています。さらに、子どもたちが集まれる場所が無いというのがありまして、実際に公民館やその中の図書館を利用する子どもをほとんど見かけません。なので、公民館の利用ということも含めて、図書館を使ってもらえたら良いという様に思います。あとは、通学の支援です。子どもたちが少なくなってきましたと遠くから一人や二人で歩いてくるといこともあって、非常に危険だと思えます。その辺りはバスを手配したりして、支援をしていけたらという様に考えています。

あとは、歴史・文化・自然の面です。長南町は他の町に比べるとどうしても取り残されてきたというイメージが多いんですが、それは逆にとても幸運なことで、取り残されてきたからこそ他の町にはない良いものがたくさんあるように思います。それをうまく継承していき、長南町のイメージアップに繋げていけたらということを考えています。

(池田委員)

きちんと調べれば、この町にも歴史的なものが色々あることが分かるかと思えます。お寺を挙げてみれば50以上ありますし、その辺りをきちんと知らせていければ、若い方の中にもお寺周りをする方もいますし、大きな観光資源になるかと思えます。そういう意味で人が来れば、そこからまた広い分野での発展が見込めるので、一つ目の提案としてあげたいと思えます。

それから、現状をみると長南町というのは、町中を歩いて行けないです。そもそも歩道が無い道路がありますし、そういう所は皆さん自動車に乗っておりますし、自転車に乗ることすら怖いような状態です。なので、やはりそこはきちんと自動車と自転車と歩行者がそれぞれに通れる道が両側に整備された町にするべきだと思います。

福祉関係としまして、子どもたちが自由に集まれる場所が無いというのがまず一点と、教育面で町に図書館が無いというのはやはり置いておいていいことではないと思えます。図書室でも良いので、最低でもきちんと司書を置くということまではしていただきたいと思えます。

(岩瀬委員長)

皆さん、ありがとうございます。これで皆さんからの意見がいただきましたが、最後に自分からも提案させていただきます。

一つ目に、ふれあいセンターの整備を挙げたいと思えます。今、長南町はかなり高齢化が進んでいますが、若者がいずれ定住してくるためにはやはり、老若男女が触れ合える場所、子どもが育てられる場所、それから他地域と交流できる場所、そういう所の拠点整備が必要だと思っています。これについては空き家などを活用した中で出来ないかと思えますので、これも施策の方に入れたいというように思えます。

もう一つが、農業関係の後継者の育成をしていかなければならないと思えます。そのためには農業法人や企業化していくのが一番良いのではないかと考えます。そういう面で企業化するような施策を立案できればというように思えます。

(岩瀬委員長)

本日出ました皆さんからのテーマにつきましては、私の方でまとめさせていただきます。後日メールにて次回以降の案としてお知らせしたいと思います。それと、3部会の方でそれぞれに案が出されておりますが、こちらを皆さんで御

一読いただいて、意見などは各部会を出していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

次回の会議は8月9日（金）、午後6時30分から行います。場所は、分館第一会議室になります。

本日も長時間にわたりましてご苦勞様でした。次回までにまた意見等出るかと思いますが、各部会で政策の方も取りまとめていただきますようお願いいたします。

午後9時31分 閉会